



KESC 京都環境コミュニティ活動 (KESC) 出前環境学習を実施しました

京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクトチーム (リーダー 長屋博久さん) では、事業者、学校、住民などの各主体が協力して、京都のそれぞれの地域で、環境学習を通じて、環境問題を解決する仕組みづくりを目指しています。

2月に、交通環境学習チーム、自然エネルギー環境学習チームが、それぞれ小学校にて出前環境学習を実施しました。

(1) 交通環境学習チーム 「地域で働く人達と『くるま』について考えよう」

■日時 2月14日 (木) 9:30~11:00 (90分授業)

■実施小学校 京都市立朱雀第四小学校 (中京区)

■対象 6年生50名

■授業実施者 KESC交通環境学習チーム

チームリーダー：山沢邦良 (株式会社エコロ21)、

段畑岳志 (株式会社ホンダカーズ京都)

松尾知恵 (京都市社会福祉協議会)

豊泉貴司 (京都市) 長屋博久 (有限会社村田堂)

■コーディネーター

永橋為介 (特定非営利活動法人コミュニティ・デザイン・センター 副代表)

内田香奈 (特定非営利活動法人環境市民)

■授業概要

車は地球温暖化を引き起こすCO₂の排出源となりますが、お年寄りや乗せたり、商品を配達するなど、車を必要とする人たちがいます。仕事で車を使ったり、造ったりする事業者が、地球温暖化を防ぐために自分たちに何ができるか考えてもらうため、なるべくCO₂を出さない車の使い方などを児童に紹介しました。

児童からは、「地球のために車を無くせばいいと思っていたけど、車がないと困る人がいるので、その使い方を考えるのが大切だと気づいた」、「自分たちの地域で環境に取り組んでいる方がいて、うれしく思った」といった感想がありました。また、学校の先生は、「児童たちが、とても面白い授業だったと言っていた。直接体験していない先生からではなく、事業者の方から直接話を聞けることに大きな意味がある。児童たちは、皆が関わりあって、より良い社会を作っていくことの重要性がよく分かったのではないかと評価してくださいました。」

※本事業は「平成19年度 京エコロジーセンター 地球温暖化防止先進モデル事業」の一環として実施しました。



(2) 自然エネルギー環境学習チーム 「地域で働く人達と『でんき』について考えよう」

■日時 2月26日 (火) 9:45~10:30、11:00~11:45
(各45分、2組に分けて実施)

■実施小学校 京都市立藤ノ森小学校 (伏見区)

■対象 4年生97名

■授業実施者 KESC自然エネルギー環境学習チーム

チームリーダー 渡辺千裕 (生田産機工業株式会社)

山沢邦良 (株式会社エコロ21)

芝原直子 (有限会社森田電設)

森田晋矢 (有限会社森田電設)

坪内善男 (京都市立洛陽工業高等学校)

長屋博久 (有限会社村田堂)

■コーディネーター

内田香奈 (特定非営利活動法人環境市民)

■授業概要

私たちの身の回りには、電気で動くものがたくさんあります。誰もが気軽に使っている電気ですが、電気を起こすにはたくさんのエネルギーが必要で、CO₂も発生します。授業では、風力発電機を製造する事業者が模型を使って風力発電の仕組みを説明したり、タクシー事業者が風力発電機を取り付けたタクシーを紹介して、児童たちにCO₂を出さない自然エネルギーによる発電を知ってもらうとともに、手回し発電機を児童に体験してもらい、電気を起こす大変さからエネルギーを大切に使うことの大事さを肌で感じてもらいました。

さらに学習を深める工夫として、今年度は、後日、児童に地域の自然エネルギー利用の状況を地図に記録してもらい、身近なところで自然エネルギーが使われていることに気づいてもらいます。

KESCの取組は、企業が学校とだけでなく児童の保護者を通じて地域との結びつきをつくるのが目標のひとつです。今回のモデル授業では、昨年度実現できなかった児童の保護者の見学も実現できました。保護者からは、「日頃あたり前にある物がどうしてそうになっているのか、実際に動かすとしても分かりやすい」といった感想をいただきました。プロジェクトでは、今後、今年度の活動を振り返り、来年度に向け一層効果的な活動について検討を進めていきます。



脱温暖化行動キャンペーン2008 「家庭の省エネ相談所」 市内全19か所で開設 (共催：京都府地球温暖化防止活動推進センター)

脱温暖化行動キャンペーン2008の一環として、「家庭の省エネ相談所」を開設しました。昨年開設した市内の全ての区役所・支所14か所のほか、今年は新たにスーパー・商店街の4か所でも開設しました。

区役所・支所の参加者は比較的年齢の高い層が中心なので、小さい子どもを連れた層を含め幅広い年齢層の方に参加していただきたいこと、また省エネ電球（電球型蛍光灯）や省エネ型エアコン等のアドバイスを受けたあと、直ぐに電気店で具体的な製品をチェックしたいという要望もあることから、市内の商業施設に協力を要請し、相談所を

開設することにしました。

各相談所は以下の写真のとおりで、参加人数は合計で638名と、昨年以上の盛況となりました。とくに商業施設の省エネ相談所では、思っていたとおり、子ども連れの方の相談を多く受ける結果となり、今後の家庭の省エネ相談の一層の普及に手ごたえを感じました。

★3月20日（木・祝）12:00～18:00ビックカメラJR京都駅店で省エネ相談所を開設します。家電量販店での初めての相談所開催となります。まだ参加されたことのない方は、ぜひお越しください。



2月4日（月）北区役所 参加者29名



2月13日（水）山科区役所 参加者30名



2月19日（火）右京区役所 参加者42名

2月5日（火）上京区役所 参加者24名

2月7日（木）中京区役所 参加者28名

2月14日（木）下京区役所 参加者38名



2月20日（水）西京区役所 参加者数42名



2月21日（木）洛西支所（西京区）
参加者数35名



2月22日（金）伏見区役所 参加者30名



2月25日（月）深草支所（伏見区）
参加者26名



2月26日（火）醍醐支所（伏見区）
参加者34名



2月27日（水）東山区役所 参加者25名



2月28日(木) 左京区役所 参加者23名



2月29日(金) 南区役所 参加者39名



2月9日(土) ジャスコ洛南店(南区) 参加者56名



2月10日(日) 京都ファミリー(右京区) 参加者58名



2月12日(火) 京都三条会商店街(中京区) 参加者37名



2月15日(金) カナート洛北(左京区) 参加者42名



「脱温暖化パートナーシップフォーラム」 脱温暖化に向けて7団体が活動を紹介

京都議定書の発効から3年にあたる2月16日、アバンティホール(京都駅八条口)において「脱温暖化パートナーシップフォーラム」(主催 京都市)が250名の参加者を得て成功

裏に終了しました。

フォーラムの代表でもある内藤正明先生の基調講演「持続可能な地域社会に向けた多様な主体の役割」などに続いて、フォーラムの幹事でもある田浦健朗コーディネーターの進行のもとで、脱温暖化に向けて取組を進めている7つの団体が発表しました。

フォーラムからは、京都における持続可能な社会の実現に向けて、各主体単独ではできないことをフォーラムという組織に集まり、パートナーシップを組むことで実現していることを紹介するとともに、京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクト(p.1記事参照)など現在推進中の活動について発表しました。

会場ロビーでは、フォーラムをはじめ24の団体・組織がパネル等を用いて各々の取組を展示紹介しました。こちらでも、意見交換やメンバー紹介など参加者相互の交流が活発に行われ、脱温暖化に向けたパートナーシップでの取組の推進に向けて実りのあるフォーラムとなりました。



会場ロビーでの交流



小山直美・京のアジェンダ21フォーラム事務局コーディネーターの発表

Agenda Forum

3月のミーティングと主催行事の予定

3月2日(日)

妙林苑おひさま発電所見学会

3月3日(月)

自然エネルギーWG運営会議

3月20日(祝)

ビックカメラJR京都駅店で「家庭の省エネ相談所」開設

3月31日(月)まで

脱温暖化行動キャンペーン「バスと電車でecoグルメ!」実施



【最終回】小山直美のドイツ報告 人々の暮らし 動物を大事にする国



昨年4月下旬から5月下旬までの1か月間、私がボランティアで関わっている日本熊森協会から、国際ロータリー第2680地区（兵庫県）のGSE（Group Study Exchange）プログラムで、ドイツ南西部シュトゥットガルト近郊に、環境研修に行かせていただきました。

今回は、ドイツでの動物事情について、ご紹介させていただきます。

近年、ドイツやイギリスをはじめとするEU諸国では、動物の権利についても人権や福祉と同レベルの重要な問題として考えられるようになってつつあります。

環境政党・ドイツ緑の党の政策綱領にも、動物の権利について規定されています。実際に、ドイツは、日本よりもはるかに動物の命を大切にする国でした。動物好きな人が多く、家では犬を鎖につながず放し飼いにし、大きな犬でもリードなしで散歩させている人が少なくありませんでした。犬が普通に電車に乗れ、犬と一緒に入れるレストランもありました。

中でも私が一番感銘を受けたのは、ティアハイムの存在でした。ドイツでは、日本とちがって、捨てられた動物たちを殺処分する行政部署がありません。飼えなくなったり、捨てられているのを見つけた動物は、各都市にある民間の保護シェルター、ティアハイムで保護されます。ここでは里親を探しながら飼育され、3週間以内で90%の犬猫に新しい飼い主が見つかるそうです。

シュトゥットガルトと、ハウルブロンにあるティアハイムを訪問しました。これらのティアハイムは、建物は古いものの、明るく開放的です。広い敷地の中に、犬、猫のほか、うさぎ、鶏など様々な動物が保護されていました。1頭あたりのスペースが比較的広く、治療室や、病気になったり年老いた動物たちがストレスを感じずに生活できる専用の家があるほか、外には、夜間、職員がいない間に警察が保護した犬を入れておく小屋がありました。ティアハイムは地域に根ざした施設で、殆どの方がその名前を知っており、ボランティアとして関わる人もたくさんいます。

ドイツでは、ペットショップで犬猫の販売が禁止されています。犬猫を飼いたい人

は、知り合いに譲ってもらうか、近くにあるティアハイムを訪問して引き取るか、ブリーダーに頼みます。また、犬を飼う人は、年間9000円～18000円程度の犬税を払わなければなりません。これらの施策によって、ドイツでは、犬猫を殺処分せず保護できるのでしょう。日本で年間40万頭近くの犬猫が殺処分されていることを考えると、ドイツの対応は素晴らしいと思いました。

インド独立の父マハトマ・ガンジーは、「国家の偉大さや道徳的水準は、その国で動物がどのように扱われているかによって判断できる」という言葉を遺しています。今でこそ日本は、動物の問題で欧米に遅れていますが、かつての日本人は、動物や自然に対して謙虚で、江戸時代に日本を訪れた欧米人が驚くほどでした。日本で命を命とも思わない事件が多発している昨今、人間社会のためにも、かつて日本人々が持っていた動物への優しく謙虚な気持ちを取り戻し、社会で一番弱い立場に立たされている動物の問題にもっと目を向けなければならないと改めて思いました。



シュトゥットガルトのティアハイムの犬舎

*今回で、ドイツ報告は終了させていただきます。ドイツでは、毎週ホストファミリーが変わるごとに別れが辛くて涙が出るほど、温かく迎えてくださいました。

これ以上の国際交流はないのではないかと思うほどでした。かけがえのない経験をさせてくださったロータリークラブの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

また最後になりましたが、私がいなかった間、活動を進めてくださったワーキンググループメンバーの皆さんや、快くドイツに行かせてくれたフォーラム事務局のスタッフの皆さんに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（小山直美）



事務局短信 5年ぶりに引っ越しました。なるべく不要な物は持たないよう心がけていたつもりですが、5年間で多量に持ち物が増えていました。反省です……。まだ使えるものはリサイクルに提供した上で、もう使えないものをゴミとして南部クリーンセンターへ持ち込んだのですが、センター職員さんの、ものを手際よく廃棄する様子にショックを受けました。このショックでしばらくは無駄な買い物はなくなりそうです。（竹村光世）／先日珍しく風邪で寝込み、体は資本だということを身に染みて感じました。暫く寒い日が続くそうなので、皆さんもお体に気を付けてお過ごしください。（小山直美）／脱温暖化行動キャンペーン2008の企画「バスと電車でecoグルメ！」は3月31日まで展開します。今月号同封のチラシ（裏面の2次元バーコードを携帯電話で読み取るとウェブサイトから参加飲食店の最新一覧をご覧になれます）をご参照いただき、お知り合いの方などともお誘いあわせのうえ、ぜひ特典をご利用になってみてください。（長谷川吉典）